

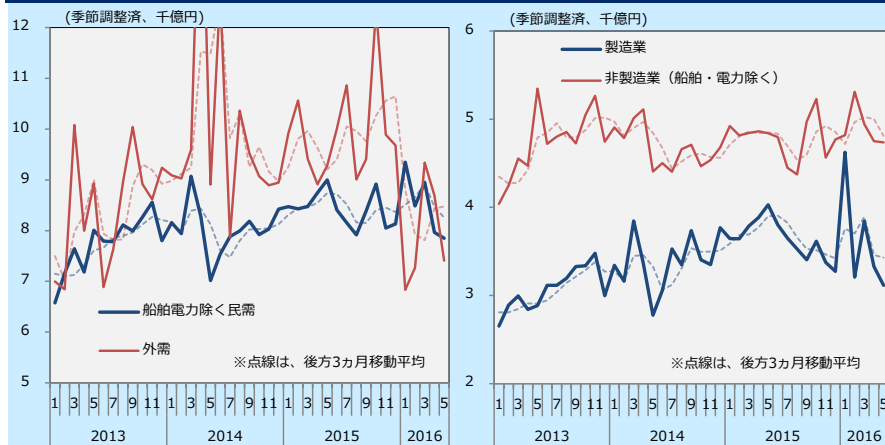
日本：機械受注統計（2016年5月）

—内外需の弱さを反映し、民需は2ヶ月連続の減少—

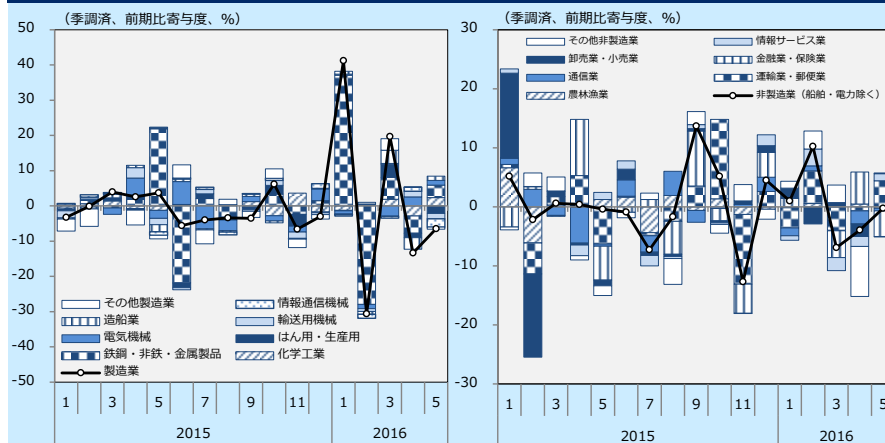
MRI Daily Economic Points

July 11, 2016

機械受注額／製造業、非製造業の機械受注額



製造業の機械受注額の寄与度分解／非製造業の機械受注額の寄与度分解



評価ポイント

2016年5月の結果

- 16年5月の機械受注額は、設備投資の先行指標といわれる船舶・電力を除く民需が、季調済前月比▲1.4%となり、4月の大幅減(▲11.0%)の後、2ヶ月連続で減少した。外需も同▲14.8%と2ヶ月連続の減少となった。
- 5月の機械受注額を業種別にみると、製造業は同▲6.4%、非製造業(船舶・電力除く)は同▲0.3%とともに減少。
- 製造業は、2ヶ月連続の減少となった。内訳をみると、前月減少に寄与した非鉄金属(前月比寄与度+4.4%)が特殊要因もあり増加、化学(同+2.3%)も前月の反動から増加したものの、情報通信機械(同▲2.3%)、はん用・生産用機械(同▲2.1%)、輸送用機械(同▲1.5%)などが減少し、機械関連を中心に弱めの動きとなった。
- 非製造業(船舶・電力除く)の受注額は、3ヵ月連続で減少した。運輸・郵便業(前月比寄与度+4.4%)が増加したものの、金融保険業(同▲4.3%)のマイナス寄与により、全体としても小幅の減少となった。
- 4-6月期の機械受注の見通しは、船舶・電力除く民需で季調済前期比▲3.5%が予想されているが、達成には6月に前月比+27.7%の伸びが必要となる。特に弱めに推移している製造業を中心に、見通し対比、下振れる可能性が高い。

基調判断と今後の流れ

- 機械受注は、内外需の弱さを反映して、弱めの動きとなった。非製造業は、均してみれば、緩やかな増加基調にあるものの、製造業は、15年半ば以降緩やかに低下している。
- 先行きの機械受注は、横ばい圏内で推移すると見込む。熊本地震により毀損した設備の復旧はプラス材料となるものの、製造業では、新興国経済の減速、円高進行、英国のEU離脱選択による先行き不透明感から、輸出企業を中心に弱めに推移すると考えられる。非製造業は、人手不足やインバウンド関連投資から、引き続き緩やかながらも増加基調を維持すると予想する。